

[論 文]

文章完成法からみた老年期の自己概念 —中年期との比較による検討—

Examination of Self-concept of elderly by the Sentence Completion Test:
Comparison with the middle-aged.

柴 田 雄 企
Shibata Yuki

ABSTRACT

The purpose of this study was to investigate the characteristic of the aged, comparing the aged group and the middle-aged group. As material to be analyzed, the responses of the Sentence Completion Test were utilized. Subjects were 29 advanced aged person (8 male and 21 female) as the older group and 27 middle-aged person (11 male and 16 female) as the middle-aged group. The mean age of the older group was 77.8 years, and the mean age of the middle-aged group was 51.7 years. The results showed that difference was found in 4 items (I am worried about-, My present life-, The present young person-, From now on-) among 17 items of SCT between the two groups. The results suggested that a self-concept did not change greatly in advanced age from the middle age.

キーワード：高齢者 自己概念 文章完成テスト

Key words: the aged, self-concept, Sentence Completion Test

【問題と目的】

多くの人は老年期を迎えると、社会的役割の変化や加齢に伴う身体的変化を体験する。老年期には加齢による変化の受容が課題となるとされている。老いた自分を受け容れるためには、自己概念を変容させることが迫られると考えられる。自己概念とは「人が自分自身についてもつ意識的認知像」(下仲・村瀬, 1975) のことである。自己概念は老年期における適応との関連性が指摘されている (Kogan N. & Wallach, M., 1961)。高齢者の中には老いた自分を受け入れられないことから、抑うつ状態などの不適応状態になる者もいるのではないだろうか。

高齢者の自己概念を中心とした心理特徴に関する研究は文章完成法 (Sentence Completion Test, 以下SCT) によっても積み重ねられてきた。下仲・村瀬 (1975) は女性高齢者を対象にSCTを用いて、加齢による自己概念の変化 (60～74歳の群と75歳以上の群の比較) と自己概念と生活環境 (居宅か施設か) との関係について検討している。その

結果、加齢による自己概念の変化として、対人関係の消極化、肯定的自己イメージの減少などの特徴を見出している。また、下仲・村瀬（1976）は居宅男女老人を対象に、下仲・村瀬（1975）と同様の調査を行っている。その結果、老年期自己イメージの発達の変化は男女一様ではなく、肯定的自己イメージの減少は女性老人においては当てはまるが男性老人においては変化がなかった。また、女性老人が家族および自己に関心が集中するという内的世界志向である一方で、男性老人は関心がより広く外的世界志向であることも示唆した。

さらに、下仲（1980）はSCTにより、高齢者と青年の自己概念を比較することにより、老年期の自己概念を追求している。69～71歳の高齢者を対象とした調査結果より、高齢者は現在の自己イメージが肯定的である一方、未来の自己については否定的イメージを述べる者が少なくないと報告している。

星野（2001）は、65歳以上の高齢者を対象に、SCTの項目に時間的展望や世代性についてのものも取り入れ、高齢者の自己概念と主観的幸福感の関連を検討している。その結果、主観的幸福感の高い者は低い者より、結婚、死に対する態度、加齢観、友人関係、社会参加、身体意識などについての項目で有意に肯定的態度がみられたと報告している。

以上のように、高齢者の自己概念についての先行研究では、青年と比較した研究があるものの、高齢者のみを対象として調査されたものが多い。しかし、老年期の自己概念の特徴を捉えるためには他の世代と比較した方が、その特徴を捉えやすいと思われる。そこで、本研究では高齢者と中年者を調査対象とし、中年者との比較により、高齢者の自己概念の特徴を検討することとした。中年期と老年期とでは自己概念において、どのような変化がみられるのであろうか。このことについて、SCTを用いて検討する。

【方法】

1. 対象者

調査対象者は、40～93才の在宅中高年者56名（男性19名、女性37名）である。中年者と高齢者を比較するため、対象者を65歳未満の中年群と65歳以上の高齢群の2つに分けた。中年群は27名（男性11名、女性16名、平均年齢51.7歳）で、高齢群は29名（男性8名、女性21名、平均年齢77.8歳）となった。高齢群の多くはデイケア施設に通っている者である。

2. 調査手続きおよび時期

調査は2003年8月～11月にかけて個別法で行った。データは研究以外の目的に使用しないこと、プライバシーの保護について説明し、協力の得られた者を対象とした。文章を書くことが困難な者は口述筆記により実施した。

3. 調査内容

(1)基本属性：性別、年齢、学歴、同居家族。

(2)文章完成テスト

刺激文としては表1の17項目を用いた。表1の項目1～16は下仲・村瀬（1975）から、項目17は星野（2001）から用いた。SCTの刺激文としては、時間的展望と関連していると考えられる項目を多く取り入れた。

4. 反応整理

反応の分類は下仲・村瀬（1975）にならい、筆者を含む臨床心理士2名が行った。項目1、項目2、項目3、項目4、項目5、項目9、項目13、項目14、項目16、項目17については、下仲・村瀬（1975）を参考に以下の6カテゴリーに分類した。①肯定的感情を反映した反応、②否定的感情を反映した反応、③中立的記述的反応、④肯定・否定を含む反応、⑤その他、⑥無反応。その他の項目（項目6、項目7、項目8、項目10、項目11、項目12、項目15）については反応内容からカテゴリーを設定し、適用した。項目6のカテゴリーは①健康のこと、②お金のこと、③熱中するもの、④家族のこと、⑤若さ、⑥性格・能力、⑦ない、⑧その他、⑨無反応とした。項目7のカテゴリーは①老後のこと、②家族のこと、③健康のこと、④生活のこと、⑤社会のこと、⑥ない、⑦その他、⑧無反応とした。項目8のカテゴリーは①家族、②達成、③食べる、④交流、⑤仕事・奉仕、⑥健康、⑦自然、⑧趣味、⑨その他とした。項目10のカテゴリーは①性格面、②能力面、③健康面、④その他、⑤無反応とした。項目11のカテゴリーは①性格面、②能力面、③ない、④その他、⑤無反応とした。項目12のカテゴリーは①若い頃のこと、②幼い頃のこと、③家族、④つらいこと、⑤楽しいこと、⑥その他、⑦無反応とした。項目15のカテゴリーは①趣味・娯楽、②人との交流、③貯金、④家族、⑤その他、⑥無反応とした。

反応分類を行った2名の反応分類の一致率は85.0%であった。一致しなかった反応については、2名で協議し、分類を決定した。

表1 本研究で用いたSCTの刺激文

| 項目 | 刺 激 文 | 関 連 概 念 |
|----|-----------------|----------|
| 1 | 私の身体は | 身体意識 |
| 2 | 生きるということは | 人生に対する態度 |
| 3 | 若いころ、私は | 時間的展望 |
| 4 | 私にとって、社会（世の中）は | 社会への関与 |
| 5 | 年を取ると | 時間的展望 |
| 6 | 私がうらやましいのは | 羨望 |
| 7 | 私が不安に思うことは | 不安 |
| 8 | 私が生きている喜びを感じるのは | 人生に対する態度 |
| 9 | 今の私の生活は | 時間的展望 |
| 10 | 私の一番の弱点は | パーソナリティ |
| 11 | 私のいいところは | パーソナリティ |
| 12 | よく思い出すことは | 思い出 |
| 13 | 今の若い人は | 世代性 |
| 14 | もし私が若かったら | 時間的展望 |
| 15 | 私の楽しみは | 楽しみ |
| 16 | これからは | 時間的展望 |
| 17 | 人生で学んだことは | 知恵 |

【結果】

SCTの各項目への回答について、中年群と高齢群を比較した。

1. 「私の身体は」

項目1「私の身体は」への各群の反応を表2に示した。表中の内容の（ ）内はSCTへの反応例であり、各群の（ ）内は各群内におけるパーセンテージである。以下の表3～表18でも同様である。

表2 「私の身体は」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|----------------------|-----------|-----------|
| 肯定的内容（健康である/元気です） | 17 (63.0) | 10 (34.5) |
| 否定的内容（ガタガタ/だいぶ弱りました） | 5 (18.5) | 12 (41.4) |
| 中立的記述的内容（年齢相応である） | 5 (18.5) | 5 (17.2) |
| 無反応 | 0 | 2 (6.9) |

2. 「生きるということは」

項目2「生きるということは」への各群の反応を表3に示した。

表3 「生きるということは」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|--------------------------------|-----------|-----------|
| 肯定的内容（楽しい/嬉しいことである） | 8 (29.6) | 13 (44.8) |
| 否定的内容（苦勞の連続である/大変なこと） | 10 (37.0) | 9 (31.0) |
| 中立的記述的内容（まず健康であることが基本であります） | 5 (18.5) | 3 (10.3) |
| 肯定・否定を含む内容（喜びや悲しみが一緒になったものである） | 4 (14.8) | 2 (6.9) |
| その他（わからない） | 0 | 1 (3.4) |
| 無反応 | 0 | 1 (3.4) |

3. 「若いころ、私は」

項目3「若いころ、私は」への各群の反応を表4に示した。

表4 「若いころ、私は」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|----------------------------------|-----------|-----------|
| 肯定的内容（毎日が楽しかった/元気だった） | 10 (37.0) | 17 (58.6) |
| 否定的内容（本当に未熟者だった/思考も経験も浅かった） | 8 (29.6) | 3 (10.3) |
| 中立的記述的内容（やせていた/わがままもんで思う通り、自由奔放） | 8 (29.6) | 7 (24.1) |
| 無反応 | 1 (3.7) | 2 (6.9) |

4. 「私にとって、社会（世の中）は」

項目4「私にとって、社会（世の中）は」への各群の反応を表5に示した。

表5 「私にとって、社会（世の中）は」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|--|-----------|-----------|
| 肯定的内容（色々な刺激を与えてくれる/勉強の場/楽しい） | 6 (22.2) | 8 (27.6) |
| 否定的内容（昔に比べ悪人が多くなっている/テンポが速すぎる） | 7 (25.9) | 14 (48.3) |
| 中立的記述的内容（こんなもんだろうな） | 11 (40.7) | 3 (10.3) |
| 肯定・否定を含む内容（昔はとても苦しいながらも人柄が良かった。現在はこわい） | 0 | 2 (6.9) |
| その他（どんなふうになるんだろう） | 1 (3.7) | 0 |
| 無反応 | 2 (7.4) | 2 (6.9) |

5. 「年を取ると」

項目5「年を取ると」への各群の反応を表6に示した。両群とも否定的感情を反映した反応が多くみられた。

表6 「年を取ると」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|--|-----------|-----------|
| 肯定的内容（まるくなる/好きなことをする時間がいっぱいできる） | 2 (7.4) | 1 (3.4) |
| 否定的内容（物忘れがひどくなる/思うように体が動かなくなる） | 19 (70.4) | 21 (72.4) |
| 中立的記述的内容（“空”ということ意識するようになる） | 3 (11.1) | 4 (13.8) |
| 肯定・否定を含む内容（何もかもがダメになっていくが、年を88までとれて感謝） | 1 (3.7) | 1 (3.4) |
| その他（もっとゆっくり時間を過ごしたいです） | 1 (3.7) | 0 |
| 無反応 | 1 (3.7) | 2 (6.9) |

6. 「私がうらやましいのは」

項目6「私がうらやましいのは」への各群の反応を表7に示した。なお、高齢群には、「健康のこと」と「お金のこと」の両方を記した者が1名、「健康のこと」と「家族のこと」の両方を記した者が1名、「お金のこと」と「家族のこと」の両方を記した者が1名いた。

表7 「私がうらやましいのは」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|--------------------------|----------|----------|
| 健康のこと（元気なお年寄り） | 3 (11.1) | 4 (13.8) |
| お金のこと（お金に余裕のある人） | 3 (11.1) | 1 (3.4) |
| 熱中するものがある（やりたい仕事をやっている人） | 4 (14.8) | 1 (3.4) |
| 家族のこと（孫と暮らしている人） | 4 (14.8) | 4 (13.8) |
| 若さ（若さを持っている人です） | 4 (14.8) | 3 (10.3) |
| 性格・能力（何事にも前向きな人） | 2 (7.4) | 0 |
| その他（将来を心配しなくて生きられる人/私自身） | 1 (3.7) | 7 (24.1) |
| ない | 3 (11.1) | 5 (17.2) |
| 無反応 | 3 (11.1) | 6 (20.7) |

7. 「私が不安に思うことは」

項目7「私が不安に思うことは」への各群の反応を表8に示した。中年群で多くみられた反応は「老後のこと」(37.0%)、「健康のこと」(22.2%)、「家族のこと」(18.5%)などであった。高齢群では「健康のこと」(20.7%)、「生活のこと」(17.2%)などの回答がみられた。

表8 「私が不安に思うことは」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|---------------------------|-----------|----------|
| 老後のこと（定年後のこと/自分の老後の生活） | 10 (37.0) | 3 (10.3) |
| 家族のこと（子供の将来/妻に先立たれることである） | 5 (18.5) | 1 (3.4) |
| 健康のこと（これからの健康状態/動けなくなること） | 6 (22.2) | 6 (20.7) |
| 生活のこと（ひとに迷惑かけないようにしたい） | 1 (3.7) | 5 (17.2) |
| 社会のこと（社会情勢である） | 3 (11.1) | 4 (13.8) |
| その他（この先どうなるか） | 2 (7.4) | 2 (6.9) |
| ない | 0 | 4 (13.8) |
| 無反応 | 0 | 4 (13.8) |

8. 「私が生きている喜びを感じるのは」

項目8「私が生きている喜びを感じるのは」への各群の反応を表9に示した。なお、中年群には「家族」と「自然」の両方を記した者が1名、「家族」と「趣味」の両方を記した者が2名みられた。高齢群には「仕事・奉仕」と「健康」の両方を記した者が1名いた。

表9 「私が生きている喜びを感じるのは」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|------------------------|-----------|-----------|
| 家族（子供の成長/孫と一緒に過ごすこと） | 10 (37.0) | 10 (34.5) |
| 健康（まず健康/まだ元気だと思えた時） | 4 (14.8) | 4 (13.8) |
| 仕事・奉仕（人の為に何かしてあげられた時） | 4 (14.8) | 2 (6.9) |
| 交流（デイケアに来て、みんなと話すこと） | 2 (7.4) | 3 (10.3) |
| 食べること（食べ物がおいしいとき） | 2 (7.4) | 2 (6.9) |
| 自然（春夏秋冬に自然が語りかけてくれる事だ） | 2 (7.4) | 2 (6.9) |
| 趣味（ペットや花の世話をしてる時） | 2 (7.4) | 2 (6.9) |
| 達成（目標を達成したとき） | 1 (3.7) | 0 |
| その他（福祉が充実していて感謝） | 1 (3.7) | 5 (17.2) |

9. 「今の私の生活は」

項目9「今の私の生活は」への各群の反応を表10に示した。肯定的内容の反応（例、充実している）を示した者の割合は中年群（33.3%）より高齢群（75.9%）の方が高く、否定的内容の反応（例、今ひとつ満足できない）を示した者の割合は高齢群（6.9%）より中年群（25.9%）の方が高かった。

表10 「今の私の生活は」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|--|----------|-----------|
| 肯定的内容（恵まれていると感じる/充実している） | 9 (33.3) | 22 (75.9) |
| 否定的内容（試練に耐えていることがある/苦しい） | 7 (25.9) | 2 (6.9) |
| 中立的記述的内容（普通です/平々凡々） | 6 (22.2) | 3 (10.3) |
| 肯定・否定を含む内容（不満もあるが自分なりに毎日楽しいことに目を向けようとしている） | 4 (14.8) | 1 (3.4) |
| その他（ペット犬と共に） | 1 (3.7) | 0 |
| 無反応 | 0 | 1 (3.4) |

10. 「私の一番の弱点は」

項目10「私の一番の弱点は」への各群の反応を表11に示した。なお、中年群で「能力面」と「健康面」の両方を記した者が1名みられた。

表11 「私の一番の弱点は」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|-----------------------------|-----------|-----------|
| 性格面（頼まれるとイヤと言えない/気がよわい） | 12 (44.4) | 14 (48.3) |
| 能力面（字がへたなこと/口ベタなこと） | 8 (29.6) | 3 (10.3) |
| 健康面（ダイエットができないこと/体が弱ってきたこと） | 4 (14.8) | 4 (13.8) |
| その他（わからない/弱点ばっかし） | 1 (3.7) | 3 (10.3) |
| 無反応 | 2 (7.4) | 5 (17.2) |

11. 「私のいいところは」

項目11「私のいいところは」への各群の反応を表12に示した。両群とも性格についての反応が多くみられた。

表12 「私のいいところは」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|----------------------------|-----------|-----------|
| 性格面（まじめな所/何でも前向きに考える/明るい所） | 20 (74.1) | 20 (69.0) |
| ない | 2 (7.4) | 4 (13.8) |
| その他（友達が多い/どこだろう？/わからない） | 4 (14.8) | 3 (10.3) |
| 無反応 | 1 (3.7) | 2 (6.9) |

12. 「よく思い出すことは」

項目12「よく思い出すことは」への各群の反応を表13に示した。なお、中年群では、「若い頃のこと」と「家族」のことの両方を記した者が2名、「若い頃のこと」と「楽しいこと」の両方を記した者が1名、「家族」のものと「つらいこと」の両方を記した者が1名みられた。高齢群では、「若い頃のこと」と「若い頃のこと」の両方を記した者が1名、「若い頃のこと」と「その他」の両方を記した者が1名、「若い頃のこと」と「楽しいこと」の両方を記した者が1名、「若い頃のこと」と「その他」の両方を記した者が1名、「家族」と「その他」の両方を記した者が1名見られた。

表13 「よく思い出すことは」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|----------------------------------|-----------|----------|
| 若い頃のこと（20歳代の事/高校時代の自分/むかし働いたこと） | 13 (48.1) | 8 (27.6) |
| 家族（両親のこと/夫の事です） | 6 (22.2) | 7 (24.1) |
| 幼い頃のこと（子どもの頃のこと/田舎の昔の友達や生活） | 4 (14.8) | 5 (17.2) |
| つらいこと（戦友のこと、情景、自分がやってきたこと/悩んだこと） | 2 (7.4) | 2 (6.9) |
| 楽しいこと（楽しかった事/楽しい時間のこと） | 3 (11.1) | 1 (3.4) |
| その他（よく思い出すが実行力がない/お話をするとき） | 2 (7.4) | 8 (27.6) |
| 無反応 | 1 (3.7) | 3 (10.3) |

13. 「今の若い人は」

項目13「今の若い人は」への各群の反応を表14に示した。中年群は多くの者（70.4%）が否定的内容の反応（例、心が壊れている）を示したのに対して、高齢群では否定的内容の反応（37.9%）と肯定的内容の反応（37.9%）（例、結構よくやっている）が同じ割合であった。中年群は若者に対して、批判的な見方をしている者が多かったが、高齢群では若者への羨望を表す反応（例、うらやましいと思う）もみられた。

表14 「今の若い人は」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|---|-----------|-----------|
| 肯定的反応（自由でうらやましい/気楽でいいなと思います） | 1 (3.7) | 11 (37.9) |
| 否定的反応（命を大切にしない/マナーがない/活気がうすい） | 19 (70.4) | 11 (37.9) |
| 中立的記述的反応（昔も今も変わらないのではと思う） | 5 (18.5) | 4 (13.8) |
| 肯定・否定を含む内容（考えが理解できない人もいるが、自分の考えをしっかりと持っている人も多い） | 2 (7.4) | 0 |
| その他(勤勉で真面目で社会の人から期待される人間になって下さい) | 0 | 3 (10.3) |

14. 「もし私が若かったら」

項目14「もし私が若かったら」への各群の反応を表15に示した。両群とも肯定的感情を反映した反応が多く見られた。

表15 「もし私が若かったら」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|----------------------------|-----------|-----------|
| 肯定的反応（旅行する/いろいろなことをやってみたい） | 23 (85.2) | 23 (79.3) |
| その他（後はふりむかない事にしています） | 3 (11.1) | 3 (10.3) |
| 無反応 | 1 (3.7) | 3 (10.3) |

15. 「私の楽しみは」

項目15「私の楽しみは」への各群の反応を表16に示した。なお、高齢群では「人との交流」と「家族」の両方を記していた者が1名いた。

表16 「私の楽しみは」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|----------------------------------|-----------|-----------|
| 趣味・娯楽（音楽会に行くこと/好きなこととして過ごす） | 17 (63.0) | 9 (31.0) |
| 人との交流（友達と仲良く出来る事/昔、苦労した人と昔話すること） | 3 (11.1) | 11 (37.9) |
| 貯金（お金をためること） | 1 (3.7) | 0 |
| 家族（孫たちの顔を見る時/子どもの将来） | 4 (14.8) | 4 (13.8) |
| その他（自然の営みと自分の生活が一致すること） | 1 (3.7) | 3 (10.3) |
| 無反応 | 1 (3.7) | 3 (10.3) |

16. 「これからは」

項目16「これからは」への各群の反応を表17に示した。中年群では肯定的内容の反応（例、楽しく人生を過ごす為に何かを始めようと思う、自分のやりたいことをやる）が多かったが、高齢群では中立的記述的内容の反応（例、今までの生活を続けること、このままですつといて炊事できなくなったら子どもの世話になる）や無反応の者もみられた。

表17 「これからは」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|---------------------------------|-----------|-----------|
| 肯定的反応（楽しく過ごしたい/夫婦で過ごす時間を大切にしたい） | 25 (92.6) | 18 (62.1) |
| 否定的反応（何もすることがない） | 1 (3.7) | 1 (3.4) |
| 中立的記述的反応（今までの生活を続けること/このまま） | 1 (3.7) | 6 (20.7) |
| 無反応 | 0 | 4 (13.8) |

17. 「人生で学んだことは」

項目17「人生で学んだことは」への反応を、群別に比較した結果を表18に示した。

表18 「人生で学んだことは」への反応

| 内 容 | 中年群 | 高齢群 |
|--|-----------|-----------|
| 肯定的反応（まわりの人に生かされていると思う/とても多く学ぶことがあった） | 3 (11.1) | 3 (10.3) |
| 否定的反応（苦勞が多い/がまんすること） | 3 (11.1) | 2 (6.9) |
| 中立的記述的反應（今はそのようなことを言える人間でない/いくつかになっても知らない事はたくさんある） | 19 (70.4) | 20 (69.0) |
| その他（わからない） | 0 | 1 (3.4) |
| 無反応 | 2 (7.4) | 3 (10.3) |

【考察】

本研究では、調査対象者を年齢によって、中年群と高齢群の2群に分けてSCTへの反応を比較した。その結果、17項目のうち、4項目（項目7「私が不安に思うことは」、項目9「今の私の生活は」、項目13「今の若い人は」、項目16「これからは」）で差異がみられた。本研究で用いたSCTの項目によって個人の自己概念の全体を捉えているわけではもちろんないが、このことは中年期の自己概念と老年期の自己概念が大きくかけ離れたものではないことを示唆していると思われる。本研究は横断的方法による調査に基づくものであり、実際の加齢プロセスに本研究の結果を当てはめることはできないが、中年期から老年期にかけて急激な自己概念の変容が起こるわけではなさそうであることがうかがえた。

以下、反応に差異のみられたSCTの項目について考察する。まず、項目7「私が不安に思うことは」では、高齢群では健康のことや現在の生活のことを、中年群では老後の生活のことをあげる者が多かった。項目9「今の私の生活は」では高齢群の反応はほとんどが肯定的内容である一方、中年群の反応は肯定的内容に収束するのではなく、分散していた。これらの結果から、中年期の者は自分の老後について不安を抱える者が多く、それが老年期の現実生活の不安につながる者もいるのかもしれないと思われる。現在の生活については、中年期の者はストレスを感じる者が多い一方、高齢者は相対的に生活からのストレスが少なくなっているのだろう。中年期では自分の老化をうすうす感じてはいるが、まだはっきりとは訪れていない老いに対して不安を感じているように思われた。そして、現在の生活（「今の私の生活は」）については、中年期の者はストレスによる疲労を感じる者が多い一方、高齢者は相対的に生活上のストレスが少ないのかもしれない。高齢者は現在の生活には「満足している」「これでいいと思う」といった肯定的感情が反映されていると思われる反応が多く、不安を抱えながらも日々を楽しんでいることがうかがえた。青年と高齢者の自己概念を比較した下仲（1980）においても、老人の約70%の者が現在の自分の生活に肯定的であったが、青年群では約40%が肯定的であり、不充実感、否定的な日常

行動記述が多かったことが報告されている。

項目13「今の若い人は」では高齢群の方が中年群より、肯定的内容が多く、否定的内容が少なかった。中年期の者は若者に対して、批判的な見方をしている者が多かったが、高齢群では若さへの憧れを投影していると思われる反応もみられた。若い世代に向けるまなざしが、中年期から老年期にかけて変化するのかもしれない。

項目16「これからは」では、高齢群は中年群と比較すると肯定的内容の反応の割合が低く、中立的記述的内容の反応や無回答の者もみられた。これは老年期になると、残された時間を意識し、自己実現に向けての希望を見失う者もいるためと思われる。この結果は、下仲（1980）の「老人の場合、現在の自己イメージはかなり肯定的で満足感のあるものとして受入れがなされている。だが、未来の自己については、（中略）否定的なイメージを述べるものが少なくないのが特徴的である」との結果と一致していると思われる。しかし、総じて「勉強がしたい」、「大学へ行きたい」などの肯定的な反応が多く見られた。これには対象者が若かった当時の社会背景も影響しているかもしれない。

差異の見られた項目から、中年期と老年期の違いが何によるのかを推測すると、高齢者の方が一日一日を大切に生きるということをより強く意識しているためではないかと思われる。

本研究では、SCTの反応を項目ごとに分類して整理し、分析したが、今後は、個人ごとに反応を解釈する分析方法を用いた研究も行っていきたい。

【引用文献】

- 星野和実 2001 ライフサイクルにおける老年期の心理社会的発達と人格特性に関する研究 風間書房 pp.110-131
- Kogan, N. and Wallach, M. 1961 Age changes in values and attitudes. *Journal of Gerontology*, 16, 272-280.
- 下仲順子・村瀬孝雄 1975 SCTによる老人の自己概念の研究 教育心理学研究 23 (2), 36-45
- 下仲順子・村瀬孝雄 1976 加齢と性差よりみた老人の自己概念 教育心理学研究 24 (3), 156-166
- 下仲順子 1980 青年期との対比における老人の自己概念—世代差、性差を中心として— 教育心理学研究 28 (4), 303-309

【付記】

本研究の調査に協力していただきました方々に心よりお礼申し上げます。また、調査実施に協力していただいた高山友紀さん、寺脇千紗都さん、松尾有希子さん、そして、反応分類に協力していただきました黒木記念病院の吉戒聡美さんに深謝いたします。